

秋の味覚

ぶどうと柿の輸出



2022年 輸出金額

果物…全国、近畿圏ともに過去最高！

ぶどう…全国、近畿圏ともに過去最高！

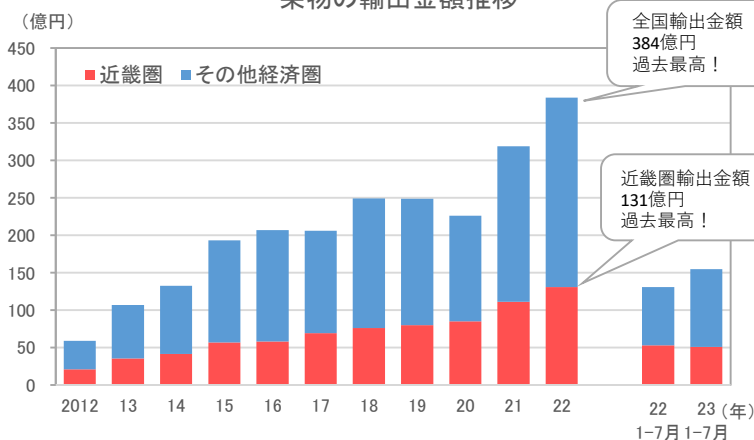
柿…全国、近畿圏ともに前年比150%超！

近年農林水産物・食品の輸出拡大に向けた取組が強化されており、2022年の全国の果物の輸出金額は383億91百万円と過去最高となりました。近畿圏からの輸出金額も130億90百万円(全国比34.1%)と過去最高となりました。

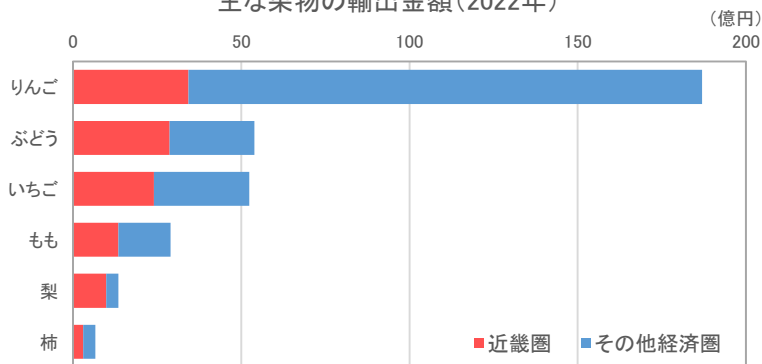
近畿圏からは1年を通して様々な果物の輸出が盛んであり、今回はその中から秋の味覚「ぶどう」と「柿」の輸出について特集します。

なお、7月、8月、9月の23日はぶどうの房(ふさ)にちなみ、全国果実生産出荷安定協議会が制定した「ぶどうの日」です。また、10月26日は、正岡子規の俳句「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」が詠まれた日とされることにちなみ、全国果樹研究連合会カキ部会により、「柿の日」と制定されています。

果物の輸出金額推移



主な果物の輸出金額(2022年)



※本稿の「果物」、「りんご」、「ぶどう」、「いちご」、「もも」、「梨」、「柿」、「干し柿」は以下の輸出統計品目表に分類されるものを集計したものです。

「果物」 第8類(食用の果実及びナット、かんきつ類の果皮並びにメロンの皮)

「りんご」 0808.10-000(りんご)

「ぶどう」 0806.10-000(ぶどう-生鮮のもの)

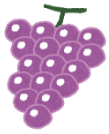
「いちご」 0810.10-000(ストロベリー)

「もも」 0809.30-000(桃(ネクタリンを含む。))

「梨」 0808.30-000(梨)

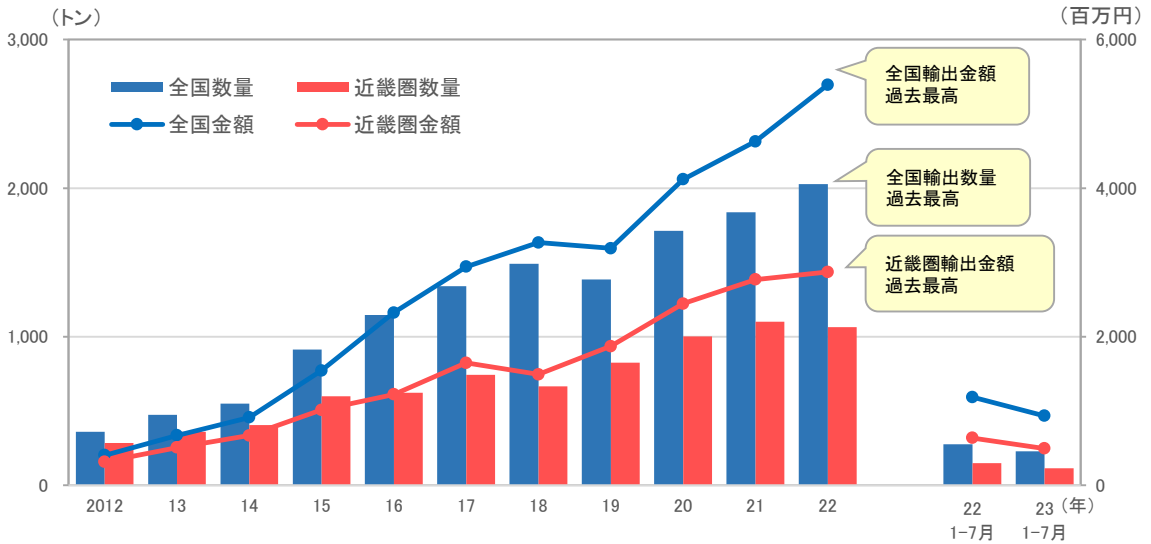
「柿」 0810.70-000(柿) 旧品目番号0810.90-100(かき)

「干し柿」 0813.40-100(干し柿)



ぶどうの輸出動向

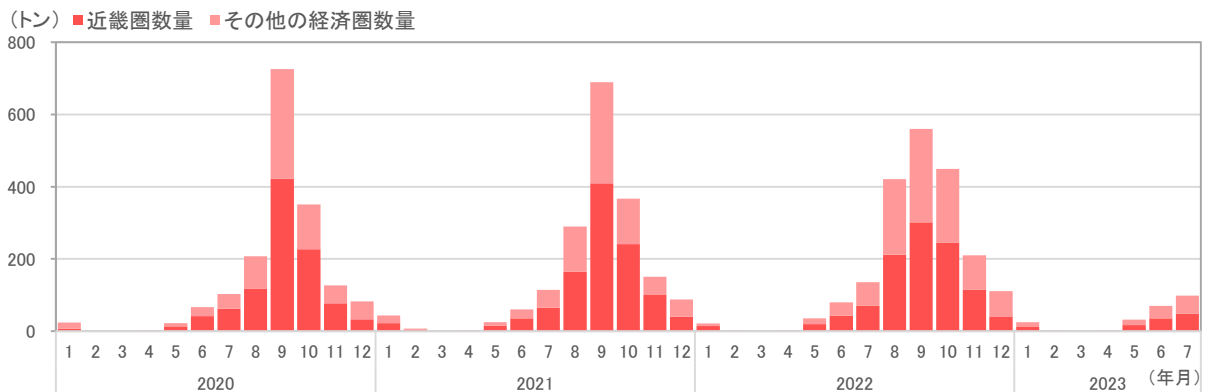
輸出推移（全国、近畿圏）



2022年の全国のぶどうの輸出数量は2,027トンで過去最高となりました。そのうち近畿圏からの輸出数量は1,065トンでした。2022年の全国の輸出金額は53億90百万円、近畿圏からの輸出金額は28億71百万円となり、いずれも過去最高を更新しました。

また、2022年の近畿圏の輸出実績を10年前(2012年)と比較すると、数量は3.7倍、金額は9.1倍となっています。

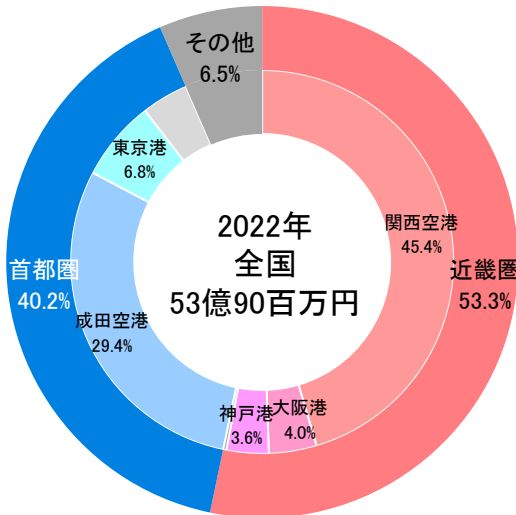
月別輸出数量推移（全国、近畿圏）



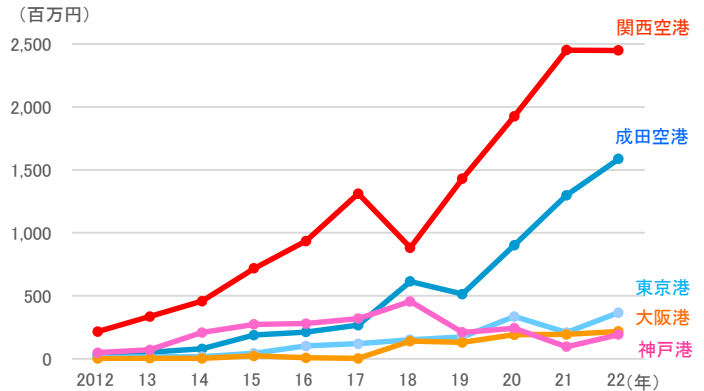
2020年以降の月別輸出数量の動向をみると、旬を迎える8月頃から輸出が増え始め9月にピークを迎えその後徐々に減少していくことがわかります。主に4～6月はハウス栽培のもの、7～10月は露地栽培のもの、11月以降は貯蔵されたものが輸出されるそうです。

また、ぶどうは東アジアの祝日である中秋節向けに需要が高まるため、中秋節の数週間前から輸出が増えます。中秋節は旧暦の8月15日で毎年日付が変わります(2020年10月1日、2021年9月21日、2022年9月10日、2023年9月29日)。2022年8月の輸出が増加したのは、中秋節の日付が9月10日と早かったためです。

経済圏・港別輸出金額



主要港別輸出金額推移

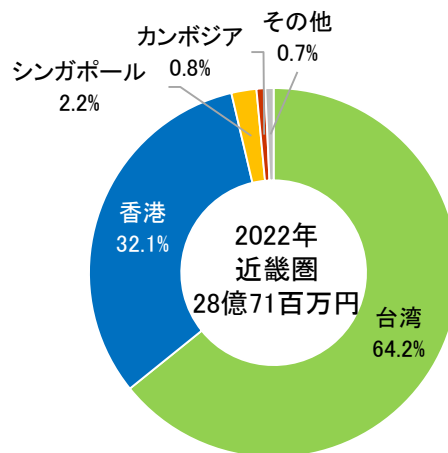
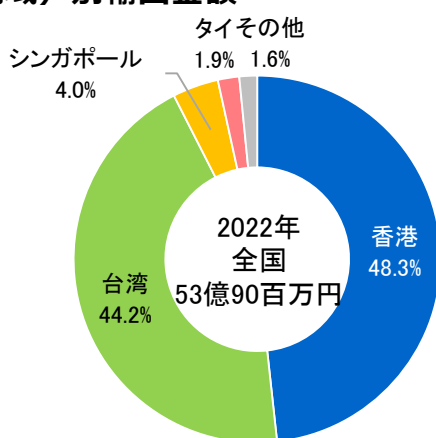


2022年の近畿圏のぶどうの輸出金額全国シェアは53.3%と経済圏別で第1位であり、第2位の首都圏と合わせると全国の9割以上を占めています。

港別では、関西空港が第1位(全国比45.4%)、大阪港が第4位(同4.0%)、神戸港が第5位(同3.6%)となっています。直近10年間の主要港別輸出金額推移をみると関西空港がトップを維持しながら輸出額を伸ばしてきたことがわかります。

近畿圏の港が利用される理由としては、品揃えが豊富な中央卸売市場等の仕入先からアクセスが容易とのことです。また、近畿圏から輸出されるぶどうの主な産地は、山梨県、長野県、岡山県等で、大粒で種無し of 皮ごと食べられるものが人気とのことです。

国(地域)別輸出金額



2022年の輸出金額国(地域)別シェアは、全国、近畿圏ともに香港と台湾の2か国(地域)合計で全体の9割以上を占めています。

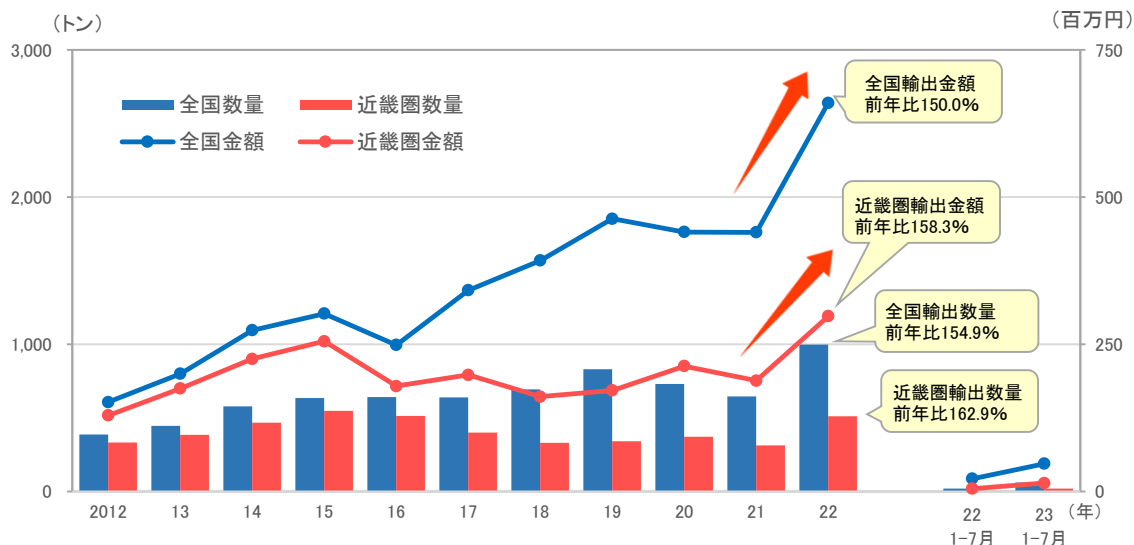
全国では第1位が香港(構成比48.3%)、第2位が台湾(同44.2%)となり、続いてシンガポール、タイの順となっています。近畿圏では第1位が台湾(同64.2%)、第2位が香港(同32.1%)となり、続いてシンガポール、カンボジアの順となっています。

香港や台湾では、ぶどうは中秋節等の祝日の贈答品として人気が高く、また富裕層を中心に家庭用に購入されることもあるそうです。



柿の輸出動向

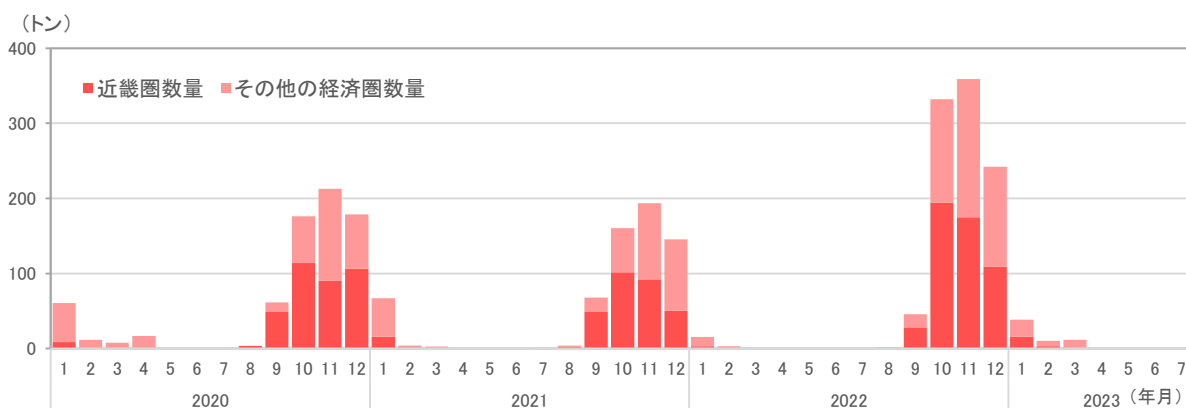
輸出推移（全国、近畿圏）



2022年の全国の柿の輸出数量は999トン（前年比154.9%）、そのうち近畿圏の輸出数量は511トン（同162.9%）でした。全国の輸出金額は6億60百万円（同150.0%）、近畿圏からの輸出金額は2億98百万円（同158.3%）でした。

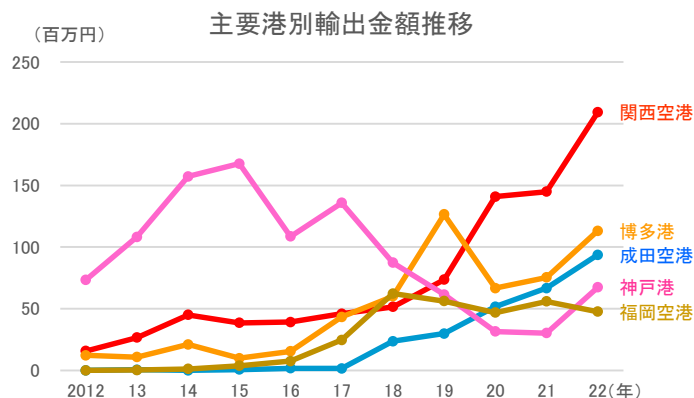
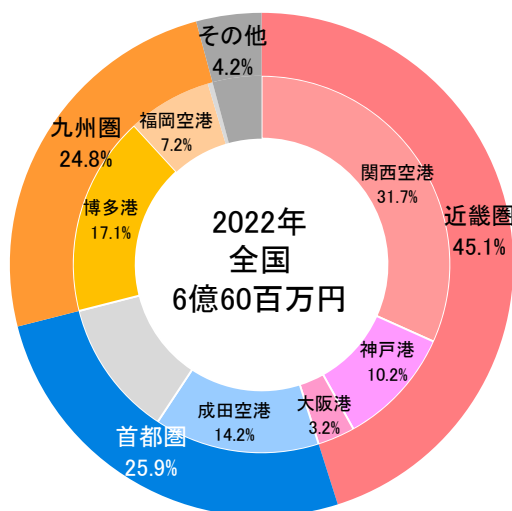
また、出荷の少ない時期ではありますが2023年1-7月の近畿圏の輸出実績は前年同期と比較すると、数量は5.9倍、金額は3.1倍と大幅に増加しています。

月別輸出数量推移（全国、近畿圏）



2020年以降の月別輸出数量の動向をみると、柿の収穫シーズンである10月から12月の3か月間に輸出が集中していることがわかります。主に7~8月はハウス栽培のもの、9月以降は露地栽培のものが輸出され、11月頃からは冷蔵貯蔵された柿の輸出も始まるそうです。

経済圏・港別輸出金額

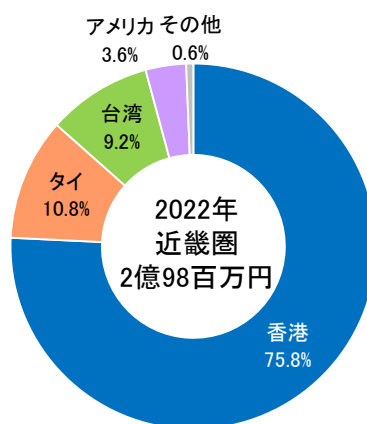
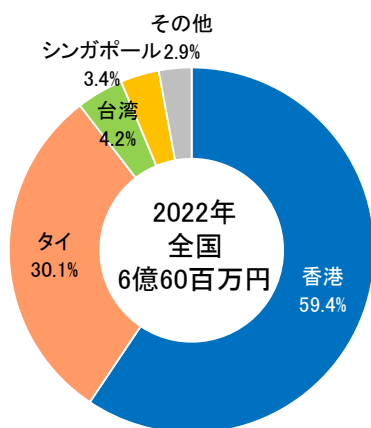


2022年の近畿圏の柿の輸出金額全国シェアは45.1%と経済圏別で第1位です。第2位の首都圏、第3位の九州圏と合わせて3経済圏で全国の9割以上を占めています。

港別では、関西空港が第1位(全国比31.7%)、神戸港が第4位(同10.2%)となっています。直近10年間の主要港別輸出金額推移をみると、2018年まで神戸港が首位でしたが、2019年に博多港と入れ替わり、2020年には関西空港が博多港を上回り、同年以降トップを継続しています。

近畿圏の港が利用される理由としては、ぶどうと同様に品揃えが豊富な中央卸売市場等の仕入先からアクセスが容易とのこと。近畿圏から輸出される柿の主な産地は、和歌山県、奈良県等で、知名度の高い品種や種無しが人気とのこと。

国（地域）別輸出金額



2022年の輸出金額国（地域）別シェアは、全国、近畿圏ともに香港とタイの2か国（地域）で全体の8割以上を占めています。

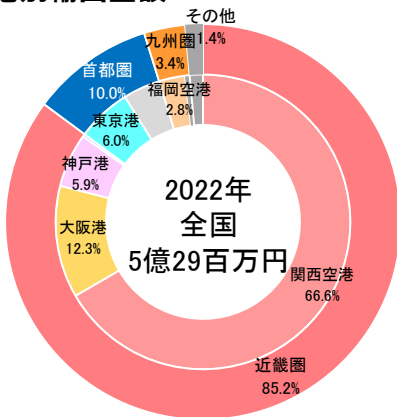
全国では第1位が香港(構成比59.4%)、第2位がタイ(同30.1%)となり、続いて台湾、シンガポールの順となっています。近畿圏では第1位が香港(同75.8%)、第2位がタイ(同10.8%)となり、続いて台湾、アメリカの順となっています。

香港や台湾では、大玉で見栄えの良い柿が人気で、ぶどうと同様に贈答品として利用されることもあります。また、タイ等東南アジアでは固めの果肉が好まれ、シャキシャキとした食感と糖度の高さを兼ね備えている果物は珍しく柿は人気があるそうです。アメリカでも固めの品種が好まれるとのこと。

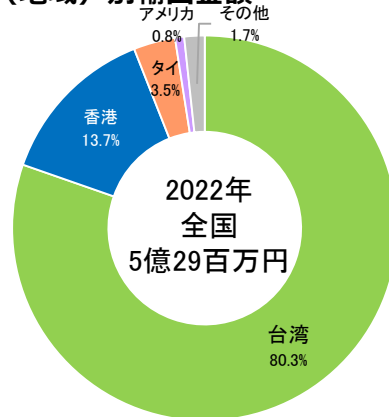


干し柿の輸出動向（参考）

経済圏・港別輸出金額



国（地域）別輸出金額

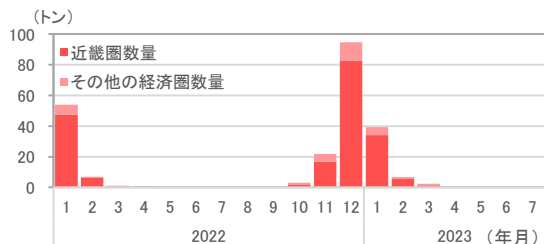


輸出統計品目表の品目「干し柿」は2022年に新設されました。2022年の近畿圏からの輸出金額は全国の8割以上を占めており、なかでも関西空港から6割以上が輸出されています。

2022年の輸出先は台湾が最も多く約8割を占め、続いて香港、タイの順になっています。台湾では干し柿の濃厚な甘さと歯ごたえのある食感が好まれているそうです。近畿圏から輸出される干し柿の産地は主に富山県、山梨県、石川県等です。

月別輸出数量推移（全国、近畿圏）

月別輸出数量の動向をみると、11月に増え始め、生鮮の柿のピークである11月よりひと月後の12月がピークとなっています。



まとめ

業界によると、ぶどうと柿の輸出について増加の背景と今後の見通しは、

- ・日本ブランドの品質や美味しさが評価され、近年はコロナ禍において特に富裕層の巣ごもり需要のため増加してきたが、富裕層が海外旅行を再開し始めていることから、今後は求められる商品の種類が変化する可能性があり、細やかに対応していく必要がある。
- ・果物（特に柿は軟化し傷みやすいためクレームが出やすい）は輸送中の品質管理が難しいが、今後鮮度保持技術が確立されれば、輸出期間を延長できるのではないかと。
- ・日本産以外の果物の品質が向上し価格競争が厳しくなっているが、今後はさらなる東南アジアへの輸出促進や新規輸出国の開拓を行い販路を拡大していきたい。

とのことです。

データ集

果物輸出金額推移

	全国		近畿圏		全国比
	百万円	前年比	百万円	前年比	
2012	5,880	69.3%	2,092	89.3%	35.6%
2013	10,693	181.9%	3,563	170.4%	33.3%
2014	13,234	123.8%	4,149	116.4%	31.3%
2015	19,334	146.1%	5,669	136.7%	29.3%
2016	20,680	107.0%	5,827	102.8%	28.2%
2017	20,609	99.7%	6,922	118.8%	33.6%
2018	24,935	121.0%	7,622	110.1%	30.6%
2019	24,899	99.9%	8,010	105.1%	32.2%
2020	22,631	90.9%	8,485	105.9%	37.5%
2021	31,898	140.9%	11,130	131.2%	34.9%
2022	38,391	120.4%	13,090	117.6%	34.1%
2022年1-7月	13,061	96.6%	5,287	111.8%	40.5%
2023年1-7月	15,488	118.6%	5,093	96.3%	32.9%

2022年 主な果物輸出金額

	全国	近畿圏	
	百万円	百万円	全国比
りんご	18,703	3,434	18.4%
ぶどう	5,390	2,871	53.3%
いちご	5,242	2,403	45.8%
もも	2,897	1,342	46.3%
梨	1,346	984	73.1%
柿	660	298	45.1%

ぶどうの輸出

輸出推移

	全国				近畿圏			
	数量		金額		数量		金額	
	トン	前年比	百万円	前年比	トン	前年比	百万円	前年比
2012	360	193.0%	404	146.1%	284	192.8%	317	139.7%
2013	475	131.8%	672	166.2%	361	126.9%	509	160.5%
2014	549	115.7%	912	135.7%	405	112.4%	670	131.7%
2015	913	166.2%	1,545	169.3%	599	147.9%	1,014	151.3%
2016	1,147	125.6%	2,324	150.4%	624	104.1%	1,223	120.6%
2017	1,339	116.8%	2,943	126.6%	744	119.2%	1,647	134.7%
2018	1,492	111.4%	3,267	111.0%	665	89.5%	1,492	90.6%
2019	1,385	92.8%	3,190	97.6%	826	124.1%	1,871	125.4%
2020	1,712	123.6%	4,118	129.1%	1,003	121.4%	2,444	130.6%
2021	1,837	107.3%	4,629	112.4%	1,100	109.7%	2,770	113.3%
2022	2,027	110.3%	5,390	116.4%	1,065	96.8%	2,871	103.7%
2022年1-7月	276	109.5%	1,187	123.9%	149	103.6%	637	111.3%
2023年1-7月	229	83.0%	935	78.8%	115	76.9%	495	77.7%



全国 月別輸出数量推移

(単位:KG)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2020	24,426	240	-	1,722	22,498	66,586	102,550	207,930	725,831	351,194	126,736	82,440
2021	43,512	6,964	150	1,755	25,006	60,084	114,190	289,952	689,429	367,040	150,423	88,340
2022	21,353	1,251	-	2,050	35,703	79,729	135,483	420,777	559,801	448,964	210,479	111,138
2023	24,636	1,293	290	1,603	32,085	69,963	98,787					

近畿圏 月別輸出数量推移

(単位:KG)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2020	7,147	-	-	1,349	13,640	41,577	62,515	117,208	421,525	227,047	77,411	33,159
2021	22,059	4,688	-	1,006	15,057	35,555	65,324	164,917	409,884	240,862	100,567	40,409
2022	14,457	1,027	-	1,217	19,319	43,038	69,860	212,060	301,689	245,294	115,321	41,379
2023	11,765	608	-	1,120	17,232	36,074	47,739					

2022年 経済圏・港別輸出金額

	百万円	全国比
近畿圏	2,871	53.3%
関西空港	2,448	45.4%
大阪港	217	4.0%
神戸港	192	3.6%
その他	15	0.3%
首都圏	2,166	40.2%
成田空港	1,587	29.4%
東京港	367	6.8%
その他	213	4.0%
その他経済圏	352	6.5%
合計	5,390	100.0%

2022年 国(地域)別輸出金額

	全国			近畿圏	
	百万円	構成比		百万円	構成比
香港	2,602	48.3%	台湾	1,843	64.2%
台湾	2,384	44.2%	香港	922	32.1%
シンガポール	218	4.0%	シンガポール	63	2.2%
タイ	101	1.9%	カンボジア	22	0.8%
その他	84	1.6%	その他	21	0.7%

主要港別輸出金額推移

	関西空港		成田空港		東京港		大阪港		神戸港	
	百万円	全国比	百万円	全国比	百万円	全国比	百万円	全国比	百万円	全国比
2012	216	53.5%	32	8.0%	8	2.0%	2	0.5%	49	12.1%
2013	336	50.0%	52	7.7%	15	2.3%	4	0.6%	71	10.6%
2014	458	50.2%	79	8.7%	17	1.8%	3	0.3%	208	22.8%
2015	718	46.5%	189	12.2%	44	2.8%	24	1.5%	273	17.7%
2016	936	40.3%	213	9.2%	102	4.4%	7	0.3%	280	12.0%
2017	1,312	44.6%	267	9.1%	119	4.1%	3	0.1%	319	10.8%
2018	882	27.0%	614	18.8%	152	4.6%	141	4.3%	455	13.9%
2019	1,431	44.9%	514	16.1%	174	5.4%	129	4.1%	210	6.6%
2020	1,926	46.8%	903	21.9%	336	8.1%	191	4.6%	242	5.9%
2021	2,451	52.9%	1,299	28.1%	209	4.5%	193	4.2%	96	2.1%
2022	2,448	45.4%	1,587	29.4%	367	6.8%	217	4.0%	192	3.6%

柿の輸出

輸出推移

	全国				近畿圏			
	数量		金額		数量		金額	
	トン	前年比	百万円	前年比	トン	前年比	百万円	前年比
2012	388	123.1%	152	107.9%	333	118.7%	129	104.1%
2013	444	114.7%	200	131.7%	386	115.8%	175	135.4%
2014	578	130.0%	274	137.0%	468	121.3%	225	128.8%
2015	635	109.9%	302	110.2%	548	117.1%	255	113.3%
2016	640	100.8%	249	82.4%	514	93.8%	179	70.1%
2017	640	99.9%	342	137.4%	399	77.7%	198	110.6%
2018	694	108.4%	392	114.8%	330	82.7%	161	81.4%
2019	829	119.5%	463	118.1%	341	103.3%	171	106.5%
2020	729	87.9%	441	95.1%	372	109.0%	213	124.2%
2021	645	88.4%	440	99.9%	314	84.4%	188	88.3%
2022	999	154.9%	660	150.0%	511	162.9%	298	158.3%
2022年1-7月	19	25.4%	22	46.9%	3	17.5%	5	47.0%
2023年1-7月	61	325.0%	47	217.9%	19	587.6%	14	306.7%



全国 月別輸出数量推移

(単位:KG)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2020	60,598	11,782	7,739	16,904	—	—	—	3,304	61,314	176,107	212,767	178,828
2021	66,891	3,848	2,465	—	—	—	567	3,780	67,948	160,255	193,418	145,389
2022	15,467	3,235	—	—	—	—	—	1,389	45,641	331,987	358,867	242,039
2023	38,604	10,226	11,695	—	—	—	252	—	—	—	—	—

近畿圏 月別輸出数量推移

(単位:KG)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2020	8,523	350	—	—	—	—	—	3,304	48,882	113,833	90,646	106,080
2021	15,931	1,160	1,190	—	—	—	447	2,160	48,730	101,543	92,293	50,306
2022	2,881	400	—	—	—	—	—	1,039	28,186	194,518	174,854	109,347
2023	15,908	3,120	—	—	—	—	252	—	—	—	—	—

2022年 経済圏・港別輸出金額

	百万円	全国比
近畿圏	298	45.1%
関西空港	209	31.7%
神戸港	67	10.2%
大阪港	21	3.2%
首都圏	171	25.9%
成田空港	94	14.2%
その他	78	11.7%
九州圏	164	24.8%
博多港	113	17.1%
福岡空港	48	7.2%
その他	3	0.4%
その他経済圏	28	4.2%
合計	660	100.0%

2022年 国(地域)別輸出金額

	全国		近畿圏	
	百万円	構成比	百万円	構成比
香港	392	59.4%	225	75.8%
タイ	199	30.1%	32	10.8%
台湾	27	4.2%	27	9.2%
シンガポール	23	3.4%	11	3.6%
その他	19	2.9%	2	0.6%

主要港別輸出金額推移

	関西空港		博多港		成田空港		神戸港		福岡空港	
	百万円	全国比	百万円	全国比	百万円	全国比	百万円	全国比	百万円	全国比
2012	16	10.3%	12	8.0%	—	—	73	48.3%	—	—
2013	27	13.3%	11	5.4%	0	0.2%	108	54.1%	0	0.1%
2014	45	16.4%	21	7.7%	—	—	157	57.4%	1	0.4%
2015	39	12.8%	10	3.3%	1	0.2%	168	55.5%	4	1.3%
2016	39	15.7%	15	6.2%	2	0.7%	109	43.7%	8	3.0%
2017	46	13.4%	43	12.7%	2	0.5%	136	39.8%	25	7.2%
2018	52	13.1%	60	15.3%	24	6.0%	87	22.3%	62	15.9%
2019	74	15.9%	127	27.3%	30	6.5%	61	13.3%	56	12.1%
2020	141	32.0%	67	15.2%	52	11.7%	32	7.2%	47	10.6%
2021	145	32.9%	75	17.1%	67	15.1%	30	6.9%	56	12.7%
2022	209	31.7%	113	17.1%	94	14.2%	67	10.2%	48	7.2%

干し柿の輸出

2022年 経済圏・港別輸出金額

	百万円	全国比
近畿圏	450	85.2%
関西空港	352	66.6%
大阪港	65	12.3%
神戸港	31	5.9%
その他	1	0.3%
首都圏	53	10.0%
東京港	32	6.0%
その他	21	4.1%
九州圏	18	3.4%
福岡空港	15	2.8%
その他	3	0.5%
その他経済圏	8	1.4%
合計	529	100.0%

2022年 国(地域)別輸出金額

	全国	
	百万円	構成比
台湾	425	80.3%
香港	72	13.7%
タイ	19	3.5%
アメリカ	4	0.8%
その他	9	1.7%

全国 月別輸出数量推移

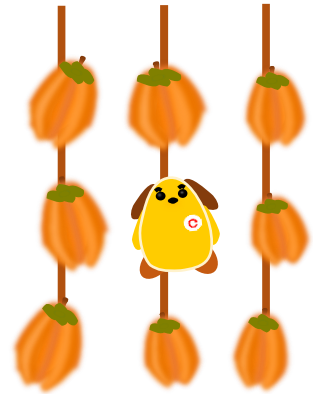
(単位:KG)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022	53,983	6,962	1,205	898	—	280	70	120	540	2,909	21,869	94,704
2023	39,287	6,792	2,314	582	440	612	—	/	/	/	/	/

近畿圏 月別輸出数量推移

(単位:KG)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022	47,516	6,228	500	719	—	280	—	120	132	2,014	16,836	82,519
2023	34,135	5,588	878	240	—	240	—	/	/	/	/	/



○2023年(令和5年)1-7月分は確報値、2022年(令和4年)は確々報値、2021年(令和3年)以前は確定値となります。

○本特集における各経済圏は以下の都府県を含むものになります。

近畿圏：大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県

首都圏：東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県

九州圏：福岡、山口、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の9県

○港別の貿易額は、その港を管轄する税関官署の貿易額を集計したものとします。

○価格はFOB価格で集計し、船舶(飛行機)出港の日をもって計上しています。

○表示単位未満は四捨五入、「0」は単位に満たないもの、「—」は実績なしのものを指します。

○「過去最高」は1988年1月以降の比較による。

※本資料を他に転載するときは、大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

※本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課までお願いします。(電話06-6966-5385)